

和歌山県田辺湾から採集された稀種クロハコフグ (ハコフグ科, 魚類)

田名瀬英明*・久保田 信*

Hidetomo TANASE and Shin KUBOTA: Occurrence records of a rare species, the blue boxfish *Ostracion meleagris meleagris* (Pisces, Ostraciidae), from Tanabe Bay, Wakayama Prefecture, Japan

はじめに

ハコフグ科の一種であるクロハコフグ *Ostracion meleagris meleagris* SHAW の生息海域は、紀伊半島以南の熱帯域 (松浦, 1997; 大方, 2002), 田辺湾以南のサンゴ礁域 (林, 2000) とされている。標準和名は琉球での採集記録によって与えられた (松原, 1955)。

本種は、本州では初めて荒賀・田名瀬 (1966) により和歌山県下の田辺湾に生息することが確認されたが、当時は四国・九州海域からの生息記録もなく稀種とされた。これ以降も本種の生息記録は南西諸島以外からは少なく、最近になって高知県柏島 (平田ほか, 1996), 和歌山県串本町 (御前, 1997; 福田, 2001), 静岡県伊豆半島や東京都八丈島 (奥野, 1988; 古瀬ほか, 1996; 瀬能ほか, 1997) から少数個体の採集や目撃の報告があるにすぎない。そのため、南西諸島以外で確認された個体の大きさや模様、観察時期などについてまで記録した報告は少ない。

筆者らは、和歌山県西牟婁郡白浜町周辺海域における本種の出現状況に注意を払っていたが、2002年冬季に田辺湾に漂着していた5個体を採集したので、過去の採集例 (3個体) とともに個体の大きさや模様、観察時期などについて記録するとともに、その成長について考察する。

本報告にあたり、御助言をいただいた Mark J. GRYSER 博士に感謝する。

個体の記録

これまでに白浜町周辺海域で採集した全個体 (生存3個体と死亡5個体) の記録を表1に示した。荒賀・田名瀬 (1966) の報告は、この表中の1964年に採集した2個体の記録に基づいている。

1964年と1966年に、生きたまま採集した2個体 (Nos. 1, 3) は田辺湾南西部海域のイシサンゴ類の散在する岩

表1 和歌山県白浜におけるクロハコフグの採集記録
Table 1. Collection records of *Ostracion meleagris meleagris* in Shirahama, Wakayama Prefecture.

生存個体 Living specimens					
個体番号	年月日	場所	水深 (m)	全長 (mm)	体長 (mm)
1	1964. X. 6	塔島東側岩礁	5	50	未測定
2	1964. X. 12	臨海実験所北浜沖岩礁	3	43	未測定
3	1966. VIII. 27	塔島東側岩礁	2	35	未測定
死亡個体 Dead specimens					
4	2002. I. 11	臨海実験所北浜漂着	—	78.9	60.8
5	2002. I. 11	臨海実験所北浜漂着	—	89.2	68.3
6	2002. I. 14	番所崎西端漂着	—	75.9	57.3
7	2002. I. 19	臨海実験所北浜漂着	—	85.6	67.0
8	2002. III. 11	臨海実験所北浜漂着	—	90.7	71.4

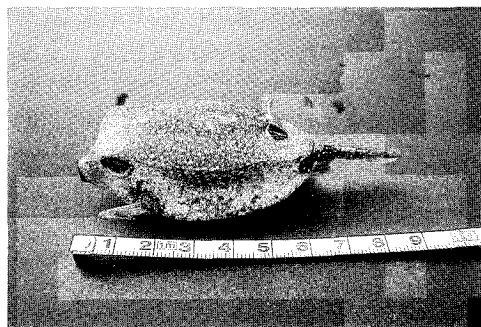


図1 和歌山県白浜におけるクロハコフグ (未成魚) の漂着個体

Fig. 1. A dead, stranded, immature specimen of *Ostracion meleagris meleagris* in Shirahama, Wakayama Prefecture.

* 京都大学大学院理学研究科附属瀬戸臨海実験所 (〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町) Seto Marine Biological Laboratory, Graduate School of Science, Kyoto University, Shirahama, Nishimuro, Wakayama, 649-2211, Japan

礁帯において単独で行動していた。また No. 2 の個体も同じ海域の転石帯で見られた。

一方、2002年1月から3月にかけて採集した5個体は、いずれも田辺湾南西部の海岸に漂着したもので、外傷や腐敗臭のない新鮮な個体であった。

採集個体の模様については、本種の成魚は雌雄で模様が異なり、未成魚は雌の模様を呈することが知られている(奥野, 1988; 大方, 2002)が、今回観察した8個体とも黒色の地色に多数の小さな白色点が散在しており、すべて雌型の模様であった。

考 察

本種は、体長が雄では18 cm、雌では15 cmに成長する(林, 2000)。今回、筆者らが観察した8個体は、全長でも35 mmから90.7 mm(平均68.5 mm)であった。No. 8個体は全長90.7 mmで、本州・四国・九州海域からの採集記録としては最大の個体であった。体の模様は、全個体とも雌型であったことから未成魚と思われる。

死亡原因については、2002年1月から3月にかけて海岸に漂着した5個体のうち4個体(Nos. 4-7)は、冬季(1月中旬)の低水温により衰弱するか死亡した後、北西風によって海岸に漂着したのであろう。残りのNo. 8個体(図1)については、越冬できたものの低水温期の摂餌不足による栄養障害などが原因で衰弱・死亡したと思われる。

採集時期については、1964年から1966年の間に3個体、その後2002年になって5個体と36年間の空白期間があったが、この空白期間中、潜水調査、寒波による魚類の寒冷死亡調査、近隣漁港の底刺網調査を実施していたにもかかわらず、全く出現していない。このような長期の空白期間は、黒潮の流れに乗って田辺湾周辺海域まで運ばれる稚仔魚の絶対数が少ないことを反映しているものと思われる。従って、2002年になって同一海域から最大個体も含めて5個体も採集されたことは特異な現象といえる。最近になって高知県の柏島(平田ほか, 1996: 全長4 cm, 1個体)、和歌山県の串本(御前, 1997; 福田, 2001)、静岡県伊豆半島や東京都八丈島(奥野, 1988; 古瀬ほか, 1996; 瀬能ほか, 1997)からの記録があるが、田辺湾における特異例との関連は不明である。

今後、黒潮の影響が及ぶ関東以南の沿岸域において、出現頻度、生息状況、個体の大きさや模様などについて、継続的な観察により詳細な記録が集まることによって、分布の北限域における本種の生息状況の解明を期待したい。

引用文献

- 荒賀忠一・田名瀬英朋. 1966: 和歌山県の浅海魚類. 和歌山県海中公園学術調査報告, **27**, 81-95, 日本自然保護協会.
- 古瀬浩史・瀬能 宏・加藤昌一・菊池 健. 1996: 魚類写真資料データベース(KPM-NR)に登録された水中写真に基づく八丈島産魚類目録. 神奈川自然誌資料, **17**, 49-62.
- 林 公義. 2000: ハコフグ科. *in* 中坊徹次編著, 日本産魚類検索 第二版Ⅱ, 1414-1416. 東海大学出版会, 東京.
- 平田智法・山川 武・岩田明久・真鍋三郎・平松 亘・大西信弘. 1996: 高知県柏島の魚類相. 高知大学海洋生物教育研究センター, **16**, 1-177.
- 福田照雄. 2001: 海中展望塔に集まる魚(24) 2000年1月~12月. 串本海中公園マリンパビリオン, **30**(3), 14-15.
- 松原喜代松. 1955: 魚類の形態と検索. 1605 pp. 石崎書店, 東京.
- 松浦啓一. 1997: ハコフグ科. *in* 岡村 収・尼岡邦夫編・監修, 日本の海水魚, 702-705. 山と溪谷社, 東京.
- 御前 洋. 1997: 定置網で漁獲された魚類について(3) 1994年から1996年の結果. 串本海中公園マリンパビリオン, **26**(8), 44-45.
- 奥野淳児. 1988: クロハコフグのこと. フィッシュマガジン, **24**(8), 103-106.
- 大方洋二. 2002: おさかな讃歌(クロハコフグ). Diver, **23**(3), 141.
- 瀬能 宏・御宿昭彦・反田健児・野村智之・松沢陽士. 1997: 魚類写真資料データベース(KPM-NR)に登録された水中写真に基づく伊豆半島大瀬崎産魚類目録. 神奈川自然誌資料, **18**, 83-98.